

会社の社長に「キミ、タバコ臭いなあ」と言われ香水をいきなりかけられました。

(医療機器メーカー・女性・32歳)

昼間の忙しい時間に「**全席禁煙**にしろ」といって、お客さんに言われたので、**丁重にお断りしたら逆ギレ**された。
(ファミレスバイト・男性・25歳)

タバコを吸っているホームレスに向かっ**て**「あんた、タバコ吸うカネがあるなら、ホームレスなんかするな」と説教している。
(飲料メーカー・男性・39歳)



友人が携帯電話の電話帳で喫煙者と非喫煙者をフォルダで分けている。

(大学生・男性・21歳)

結婚前に、相手の母親にタバコを吸っていることがバレ、結婚を大反対。「タバコを吸う嫁じゃあ、子供が生まれてもノータリンだ」と言われた。

(専業主婦・29歳)

嫌煙モンスター

タバコ臭いと社員に香水をかける社長、喫煙・非喫煙で携帯の友人フォルダを分ける男etc. いくら何でもやりすぎだろ！

驚愕！活動報告

4

1月1日、神奈川県で全国初となる受動喫煙防止条例が施行され、官公庁や学校、病院などが完全禁煙となった。

一方で、厚生労働省は職場での「受動喫煙」防止を義務付ける労働安全衛生法改正案を来年の通常国会に提出し、今後の議論次第では飲食店や宿泊施設などの完全禁煙を法制化される可能性がある、と大きな話題になっている。

こうした加速度的に進む禁煙化を受け、急増していると言われるのが「嫌煙モンスター」。彼らのやりすぎとも言える、身勝手な行為が多数報告された。

「職場の喫煙所で一服していると、元喫煙者の女性上司がやって来て『タバコをやめられない人は社会で云々……』と説教。さらに俺の服の臭いを嗅いで『派遣の人と同じ臭いがする』と言ってきた」(IT会社・男性・29歳)



高橋賢男氏

週刊誌記者などを経て、フリージャーナリスト。'99年に雑誌に寄稿した「禁煙ファシズム」の狂気が大きな反響を得る。著書に「機会不平等」(文藝春秋刊)ほか多数

喫煙者を「差別」するのは、嫌煙モンスターの特徴のひとつだ。「大学の友人が携帯電話の電話帳で喫煙者と非喫煙者でフォルダに分けていた」(大学生・男性・21歳)、「義母に『タバコを吸う嫁じゃあ、子供が生まれてもノータリンだ』と言われた」(専業主婦・29歳)、「上司が『タバコを吸っているヤツは低収入で低学歴が多い。だから、俺の部下には要らないんだよな』と言っていた」(イベント会社・男性・33歳)など、枚挙に暇がない。嫌煙モンスターは主に職場や飲食店、公共施設など分煙化が進む場所に出没するケースが多い。「喫煙者の溜まり場の喫茶店で一服していると、子連れで来た女

「受動喫煙」の観点から分煙、全面禁煙へと突き進む日本社会。そんな時流を受け、嫌煙モンスターなる者たちが大暴れしているという。いくら何でもやりすぎと思える、彼らの横暴ぶりをレポートする。

会社の社長が朝礼で「タバコを吸うヤツはその時間分働いてないのだから、残業代を請求するな」と言い、社内の禁煙化を進めている。
(不動産会社・男性・27歳)



愛煙家の溜まり場の喫茶店でタバコを吸っていたら、横に子連れの女性が座ってきた。そして、店員を呼びつけ「子供がいるので、タバコ吸わないように言ってもらえますか?」と。ここ、喫煙席なんですけどね……。
(フリーター・男性・27歳)

喫煙室の暖房、空気清浄機代が勿体ないという理由で換気扇が止められた。ウチの会社の喫煙室は煙で真っ白です。
(外資系保険会社・男性・35歳)

世界的な嫌煙運動はつくられた陰謀?!



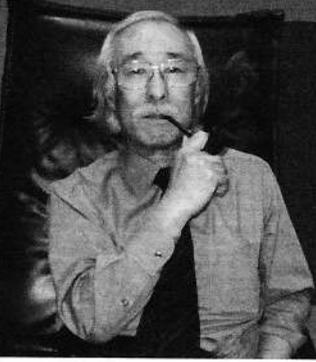
の嫌煙化は、科学的根拠のない副流煙脅威論が支配している」と断罪する。

「日本では嫌煙運動に詳しい鈴木達也氏だ。『81年に発表された国立がんセンターの平山雄博士の論文がきっかけ。でも、その根拠となるデータは彼の死後、現在も未公表のまま。最近も、厚生労働省は『喫煙者の配偶者の肺がん罹病率は非喫煙者の配偶者の2倍』と発表しましたが、一般的な夫婦が接する時間は平日で2、3時間ほど。それで罹患するのなら、喫煙者は全員肺がんになってしまっ」

めるため、『不都合な真実が黙殺されている』とも鈴木氏は主張する。『92年にウイーンで開催された『タバコと社会』シンポジウムで、ある社会学教授が『タバコの広告規制が厳しい国ほど若者の麻薬汚染が顕著』と統計データを発表した。ところが、この事実は完全に黙殺されているんです。実は、こうした背景に70年代、排ガスによる環境汚染が取り沙汰されていた自動車業界が、その矛先を変え、活動の場を移したというの有名な話。最近では『禁煙ドクター』の名声を得たい医師や、禁煙政策を打ち出して評価を上げたい政治家な

と嫌煙利権があるんです。嫌煙に見え隠れする陰謀はヤバい。黒いところか?!

鈴木達也氏
 国際パイプアカデミー評議員、日本パイプクラブ連盟会長、自らはパイプ愛好者、広く愛煙者の権利擁護に努める。喫煙歴は45年。医師も専ら、ほど奇麗な肺・気管支の持ち主とか



性に『子供がいるので』と注意された。喫煙席なのに……(フリーター・男性・27歳) などという話をよく聞く。しかし、喫煙を多少は許容してくれていた家族が突然、嫌煙モンスターに豹変する例もある。

「反抗期を迎えた高校生の娘が突然、嫌煙モンスター化。喫煙者は街中では大気汚染者だとか、アメリカでは禁煙できない社会人は負け組だとか、事あるごとに小言を言われる。さらに服の洗濯も分けられて、同じ洗濯カゴに入れただけでヒステリー。最近はそのような娘に妻まで毒されてきて。私が喫煙歴22年でタバコにかけた総額を計算し、自宅が賃貸なことをなじられています……(食品メーカー・男性・48歳)」

至るところに出没する嫌煙モンスターについて、非喫煙者ながら「禁煙ファシズム」問題に警鐘を鳴らすジャーナリストの斎藤貴男氏は、こう分析する。

「どこかで聞きかじった情報や、お上から与えられたデータを吟味もせず真に受け、正義を振りかざそうとするのは嫌煙モンスターの常套手段ですね。彼らは強いほうや多数派につき、異質なものを排除したいという日和見根性の持ち主なので、主体性も論理性もない。だからこそ、お上に操られやすいという恐ろしい面があり、増長させる可能性もある」

そして、この行きすぎた「禁煙ファシズム」はタバコだけにとまらず、ほかの分野でも「ファシズム」を台頭させる可能性を秘めているという。

「正当な根拠に基づかない喫煙者排除を今、許してしまえば、次は飲酒の自由、末には言論の自由と発展していき、『害悪』の名の下にさまざまな自由が奪われてしまうかもしれない。禁煙運動の暴走は、もはや喫煙者だけにとつての問題ではないんです(斎藤氏)

嫌煙モンスターは、ターゲットが替われば、違うモンスターに化けるかもしれないのだ。

世界のヤリすぎ嫌煙事件簿

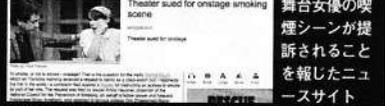
アメリカ
 '09年11月、Apple社が「バイオハザードであるニコチンに汚染されている」として、喫煙者のMacの修理を拒否していたことが判明。

アメリカ
 '08年2月、自室内でタバコを吸っていたチェンスマーの女性が、「共用廊下までタバコの臭いがする」とマンションの隣人に訴えられる。

アメリカ
 マサチューセッツ州では警察官と消防署員の採用に際し、「非喫煙者に限る」という条件が加えられている。既採用者に対しては抜き打ちのバッチテストを実施。

インドネシア
 '10年3月、国内第2のムスリム団体が所属する3000万人の信者に対し「救済で禁じられている自殺行為と同等」として、喫煙を全面的に禁止した。

イスラエル
 '09年12月、舞台女優に喫煙シーンを演じさせ、観客の健康を害したとして、弁護士らがハイファの劇場に対し、約9200万円の損害賠償を求めて提訴。



動物を愛しすぎるがゆえに、独自の主張を押し通す人々に密着！

3

月某日、若者で溢れ返る新宿アルタ前で、飼い犬（パピヨン）を遊ばせる男性がいた。男性の手にはリード（手綱）はなく、犬は群衆の足を放し飼いですり抜けていく。足を止めて振り向く人々。「かわいい」などと口にする女性もいたが、まさかその犬が狂犬病の注射を受けていないとは、思いもよらないだろう。飼い主の高橋昭雄さん（仮名・70代）は、数年前から銀座や新宿で放し飼いを始め、「注意してきた人を逆にやり込めてやっつた」と胸を張る。「しつけのいいおとなしい犬の場合、ノーリードを禁止する法律も条例もない」というのが高橋さんの主張だ。正しい飼い方をすれば、他人に危害を加えないし、噛まれても狂犬病の恐れなど皆無だとも主張する。



「獣医師会は、狂犬病が空気感染するののように触れ回っている詐欺団体！」と激しく糾弾する高橋さん。民主党に狂犬病注射撤廃の公約化を迫るなど、幅広い活動を行う

「日本には狂犬病の菌自体がまったく存在していません。狂犬病で人が死んだなんてニュース、聞いたことありますか？ イギリスなど狂犬病注射を義務づけていない国は多数あります。狂犬病の注射なんて必要ないんですよ。それでも注射を義務づけるのは、獣医師が儲けたいからとしか思えない。しかも狂犬病のワクチンは毒薬で、注射後に犬が急死した例が02、08年で81件もある。もちろんこれは

氷山の一角。獣医師は「体調が悪かったから」などと巧みに隠蔽する。すべてはカネのため、許せることではない！」
ドッグフードも「毒フード」と言い切る高橋さんは、好物のチョコレイトをおやつに与える。



物なんていないほうがいい」。そう語るのは、十数年間で1600匹の犬猫に去勢手術をさせた中谷恵さん（仮名・40代）。彼女の持論によると、「繁殖は虐待だ」という。

「ノーリードや狂犬病注射撤廃をブログで訴えていたら、行政やマスコミが目をつけ、閉鎖要請を受けたこともありました。まあ、すべて論破しましたけどね（笑）。彼らの言いなりになっていては、飼い犬が殺されてしまいますよ」

「絶滅は不幸ではない」と
不妊手術に奔走

「動物愛護を本気で考えたら、動

「繁殖させて増やせば、去勢をしない悪い飼い主に引き取られたり、野良化する猫が増えます。その子たちを待っているのは、肉体的・精神的苦痛であり、保健所による殺処分。そんな目に遭うくらいなら、生まれてこないほうが幸せ。」

「猫を去勢せず他人に譲るなら安楽死を」「狂犬病注射は必要ない」etc. 独特の信念を持った活動家を直撃する

動物愛護家の凄まじい主張



赤ちゃんアザラシを殺さないで PETA

シー・シェパードや映画「ザ・コーヴ」のイルカ漁、クロマグロ禁輸など、海外の動物愛護団体と日本で摩擦が起きている。実は国内にも、近隣住人と摩擦を起こしている愛護家がいるのだ





去勢をせずに繁殖させることは虐待だ

去勢を助める手製のピラをポストイングし、プログ「二本松アニマルポリス」では個人攻撃も辞さないなど、精力的に活動する。現在自宅では犬と猫を保護中

だから、もし繁殖させずに絶滅したとしても、不幸なことではないと思うんです」
 最初は、不幸な犬猫を数十匹も自宅で保護していたが、すぐに限界がきた。以降は自費で去勢手術をさせる活動に着手し、費やした額は1700万円にも上るといふ。
 「去勢を虐待と考える人や、野良猫をいじめめる人と衝突して、逮捕されたこともありますよ。そもそも人間が動物を飼うこと自体、生

意気なことなんですよ」
 現在は、自腹の切りすぎで資金難になり、専らHPやチャラシのポスティングなどの啓蒙活動に注力している。去勢手術を受けていない犬猫を見つけると、手術の日程を決めるよう往復はがきを送付する。さらに、手術済みだと回答する人には、領収書まで確認する念の入れようだ。



今も猫の毒殺を行っているというが、誰かが餌やりをしているようで、駐車場には数十匹の野良猫が集まるようになったとか……

ペットを引き取っていたら、動物園状態に

兵

兵庫県路市に、飼えなくなったペットを引き取る「動物王国ペットランド」という保護施設がある。竹中さん夫婦が朝から晩まで動物たちの世話をしている。

「私も昔はペットショップを経営していたんですよ。ところが、動物を売るところや処分するところはあるのに、保護するところはない。昔はペットに食わせてもらっていたんだから、お礼

をしなきゃと思ひ、どんなペットでも引き取り、一般公開もしていました」
 犬や猫は当然、豚や馬、ヤギ、アヒル、ウサギ、亀と気づけば動物園状態に。しかし、ここ1、2年でマナーの悪い客や動物愛護をはき違えた客が増え、憤りを感じているという。

「餌代などを含め、例えば猫なら一匹3万円をもらっていました。本気で助

けたい人だけ持ってきてほしいんですけど、きれいなごはいらない。しかし、そういう説明をすると、急にトーンダウン

する人が多い。電話で問い合わせがきても、カネがかかるのとわかつた途端、持

つてこなくなるんですよ。さらに、3万円の引き取り手数料さえも高いと言

って、こっそり置いて飼いまいる。動物を叩いたりイタズラする子供

を注意すると逆キレする親も多い。私たちの飼ひ方にケチをつけて保健所に

苦情を言いに行く客もいる。とにかく口だけは達者なんです。そういう飼

い主客にうんざりして、最近は動物の一般公開もやめました。たとえ元

飼い主でも、引き取ったペットは会わせません。今はウチの子なんですから」

きちんと飼えないなら 殺処分もやむなし!

「不幸な野良猫を増やさないために、登録制と完全室内飼いを法制化すべき」と主張するのは、関西

在住の緒方智子さん(仮名、50代)。在

住の緒方智子さん(仮名、50代)。法制化されるまでの過渡的な手段

として、不幸な野良猫が増えるくらいなら、毒物による殺処分をす

べし」と過激な主張を展開する。

「私は今もやっています。かわい

そうですが、犬も通ってきた道。今の

社会には、野良猫の数に対して、正しく

猫を飼える飼い主の数が圧倒的に少なすぎるんですよ」
 そんな緒方さんは20年以上も、無責任な野良猫への餌やりを悩まされているという。

「駐車場を餌場にされ、車は傷だらけになるし工具箱に糞尿をされるし、半ばノイローゼ気味に。引

つ越し先でも同様の被害に遭ったうえ、自治会からは、私が「野良

猫に餌やりをしているのでは」と濡れ衣を着せられるありさま。そ

れに、駐車場では冬場、エンジンルームに子猫が入り込み、巻き込

まれて焼け死ぬことがあるんです。そんなことが起きたら、私にと

つても猫にとつても迷惑ですよ」
 通常では受け入れがたい主張を

している愛護家が、案外身近に潜

んでいるのかもしれない。

